

平成 26 年度第 1 回一関市医療と介護の連携連絡会研修会

アンケート調査結果

1 開催状況

- (1) 日 時 平成 26 年 7 月 2 日 (水)
14:00～16:00
 - (2) 場 所 東山地域交流センター 多目的ホール
 - (3) 目 的 医療と介護の円滑な連携
 - (4) 対象者 市民、医療関係者、高齢者施設従事者、介護サービス事業関係者、行政関係者等
 - (5) 参加者 312 名
 - (6) 主 催 一関市医療と介護の連携連絡会
 - (7) プログラム
-

平成 26 年度 第 1 回一関市医療と介護の連携連絡会研修会

日時：平成 26 年 7 月 2 日 (水)

14:00～16:00

場所：東山地域交流センター
多目的ホール

次 第

1 開 会 14:00

2 挨 拶

3 講 演 14:15～15:45

認知症とはどういうものか？

～症状・気づき・対応～

講 師 岩手県立千厩病院 院長 吉田 徹 氏

4 行政報告 15:45～16:00

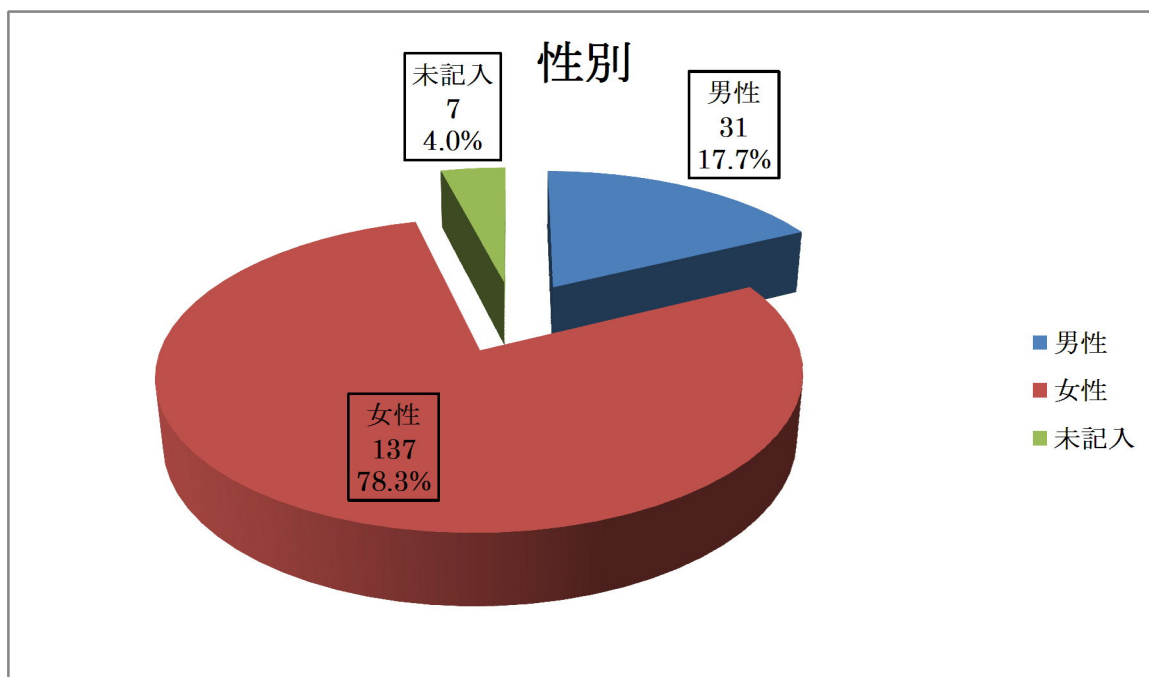
5 閉 会 16:00

2 アンケートの集計結果

回答者数 175 人 (回収率 56.1%)

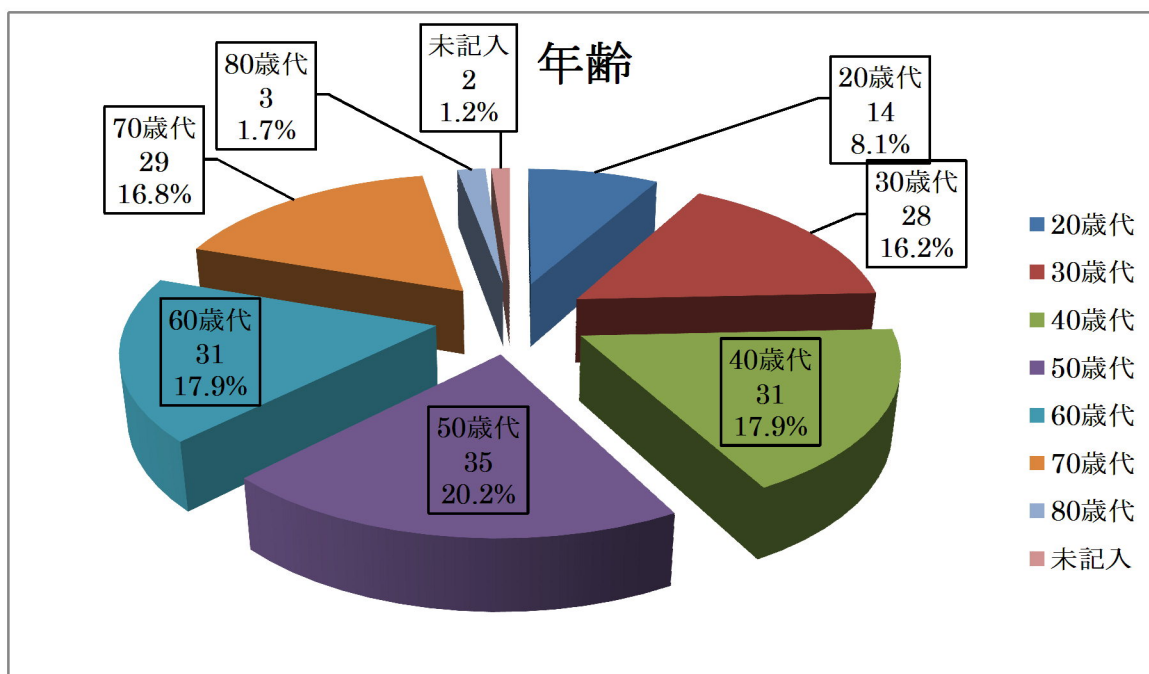
質問1 性別

男性 31 人 (17.7%)
女性 137 人 (78.3%)
未記入 7 人 (4.0%)



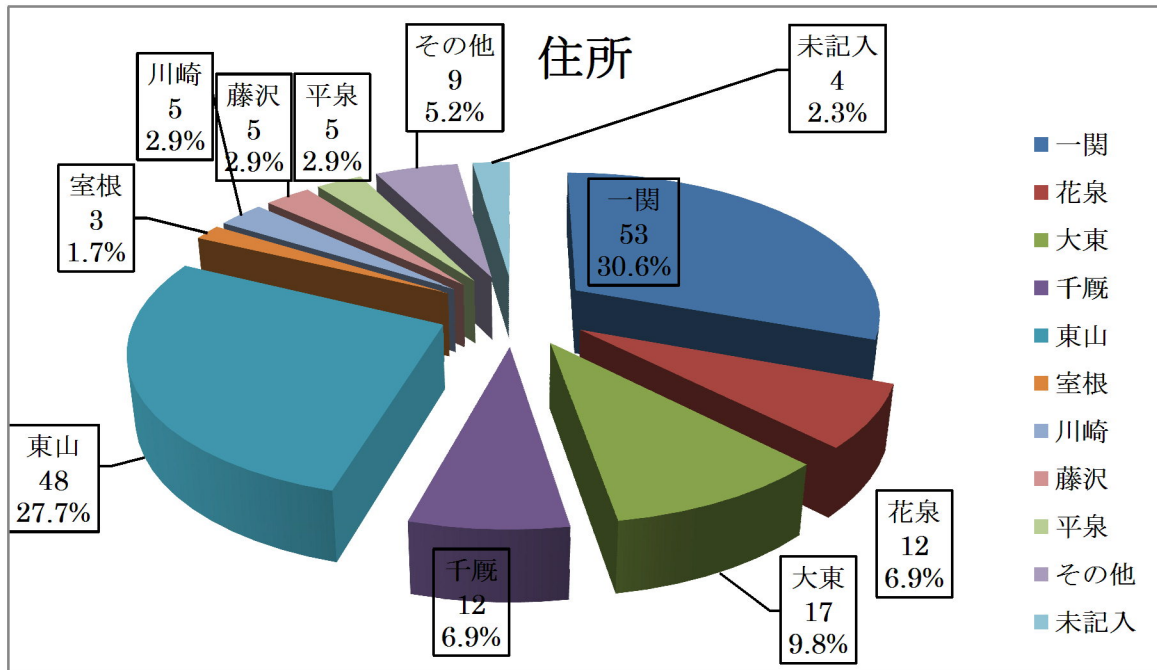
質問2 年齢

20歳代	14 人 (8.1%)	30歳代	28 人 (16.2%)
40歳代	31 人 (17.9%)	50歳代	35 人 (20.2%)
60歳代	31 人 (17.9%)	70歳代	29 人 (16.8%)
80歳代	3 人 (1.7%)	未記入	2 人 (1.2%)



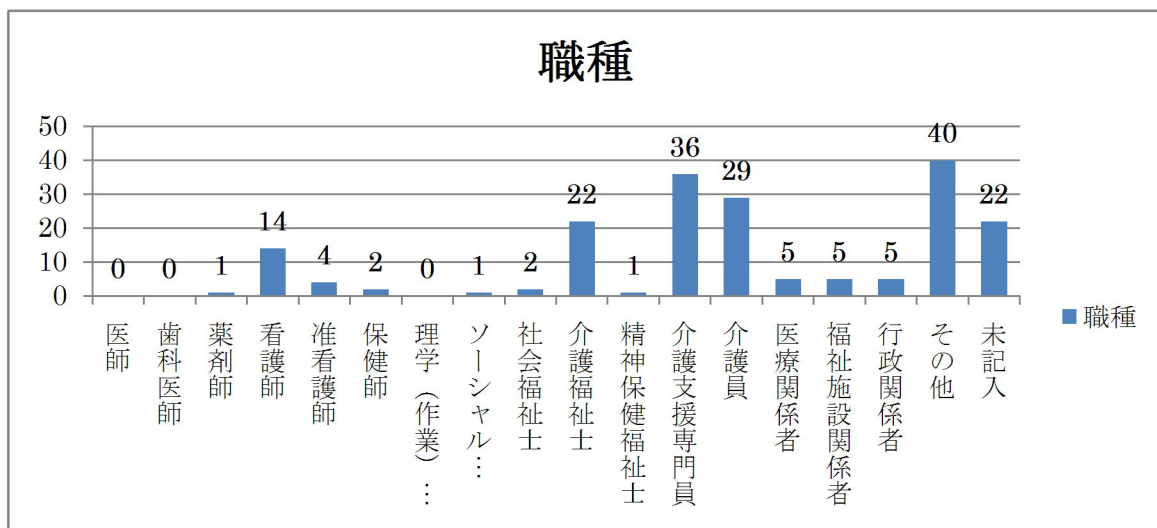
質問3 住所

一関	53人 (30.6%)	花泉	12人 (6.9%)
大東	17人 (9.8%)	千厩	12人 (6.9%)
東山	49人 (27.7%)	室根	3人 (1.7%)
川崎	5人 (2.9%)	藤沢	5人 (2.9%)
平泉	5人 (2.9%)	その他	9人 (5.2%)
未記入	4人 (2.3%)		



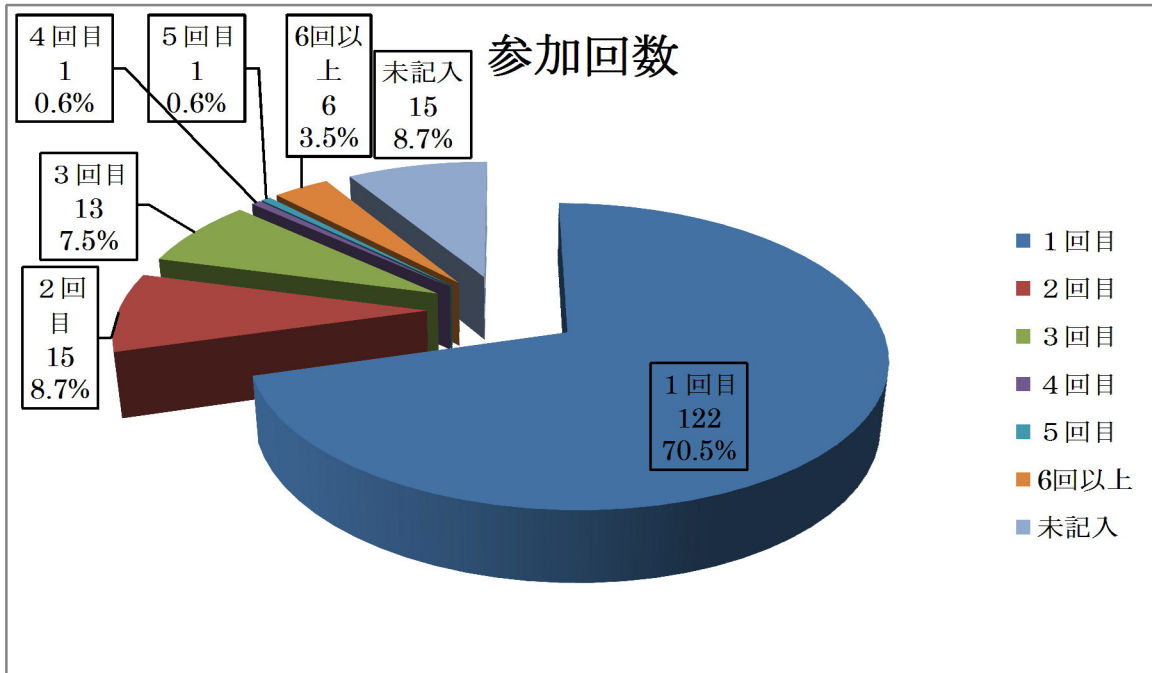
質問4 職種

医師	0人 (0.0%)	歯科医師	0人 (0.0%)
薬剤師	1人 (0.5%)	看護師	14人 (7.4%)
准看護師	4人 (2.1%)	保健師	2人 (1.1%)
理学(作業)療法士	0人 (0.0%)	ソーシャルワーカー	1人 (0.5%)
社会福祉士	2人 (1.1%)	介護福祉士	22人 (11.6%)
精神保健福祉士	1人 (0.5%)	介護支援専門員	36人 (19.0%)
介護員	29人 (15.3%)	医療関係者	5人 (2.6%)
福祉施設関係者	5人 (2.6%)	行政関係者	5人 (2.6%)
その他	40人 (21.2%)	未記入	22人 (11.6%)



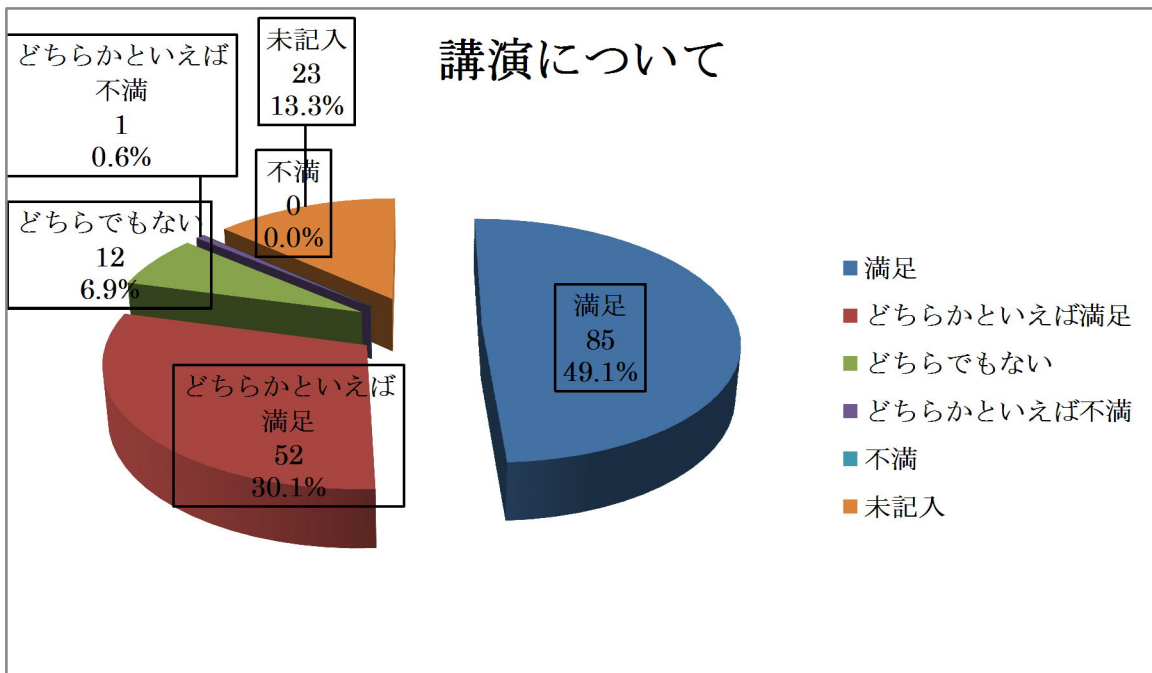
質問5 参加回数

1回目	122人 (70.5%)	2回目	15人 (8.7%)	3回目	13人 (7.5%)
4回目	1人 (0.6%)	5回目	1人 (0.6%)	6回以上	6人 (3.5%)
未記入	15人 (8.7%)				



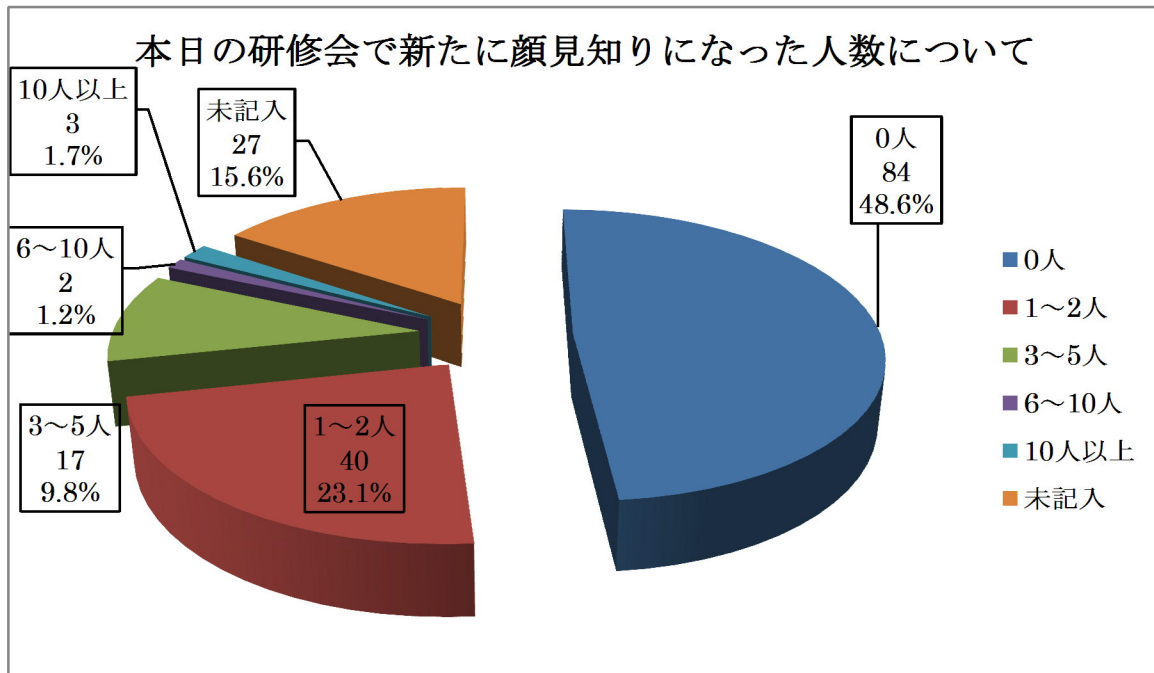
質問6 講演について

満足	85人 (49.1%)	どちらかといえば満足	52人 (30.1%)
どちらでもない	12人 (6.9%)	どちらかといえば不満	1人 (0.6%)
不満	0人 (0.0%)	未記入	23人 (13.3%)



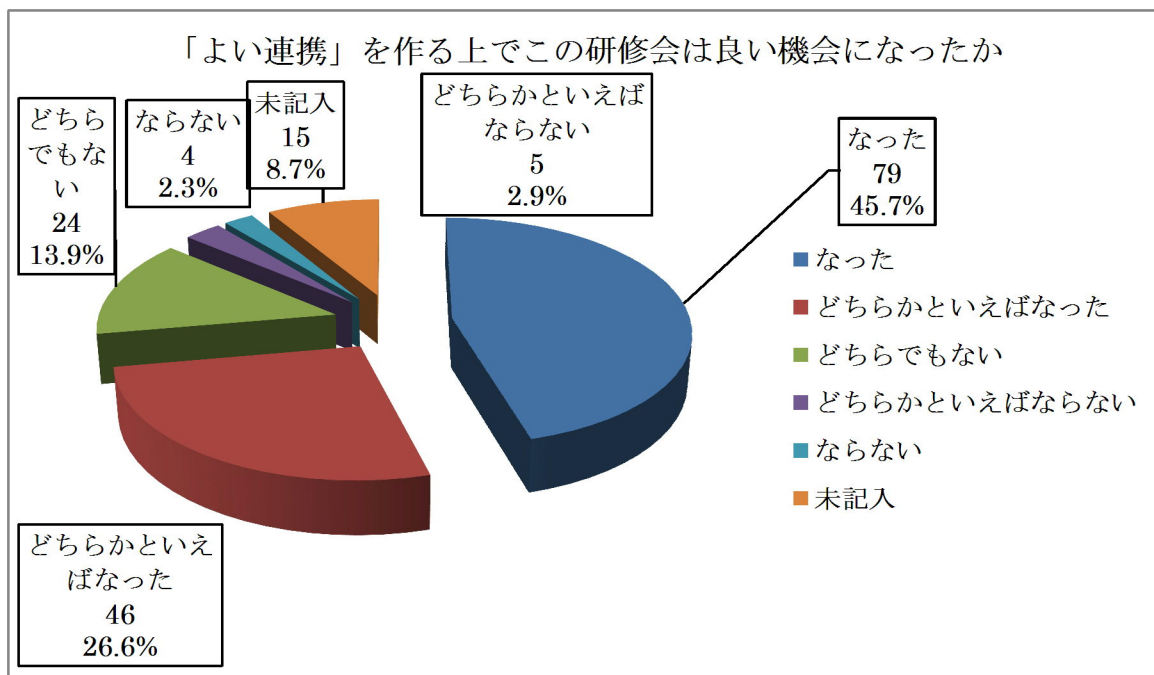
質問7 本日の研修会で新たに顔見知りになった人数について

0人	84人 (48.6%)	1~2人	40人 (23.1%)
3~5人	17人 (9.8%)	6~10人	2人 (1.2%)
10人以上	3人 (1.7%)	未記入	27人 (15.6%)



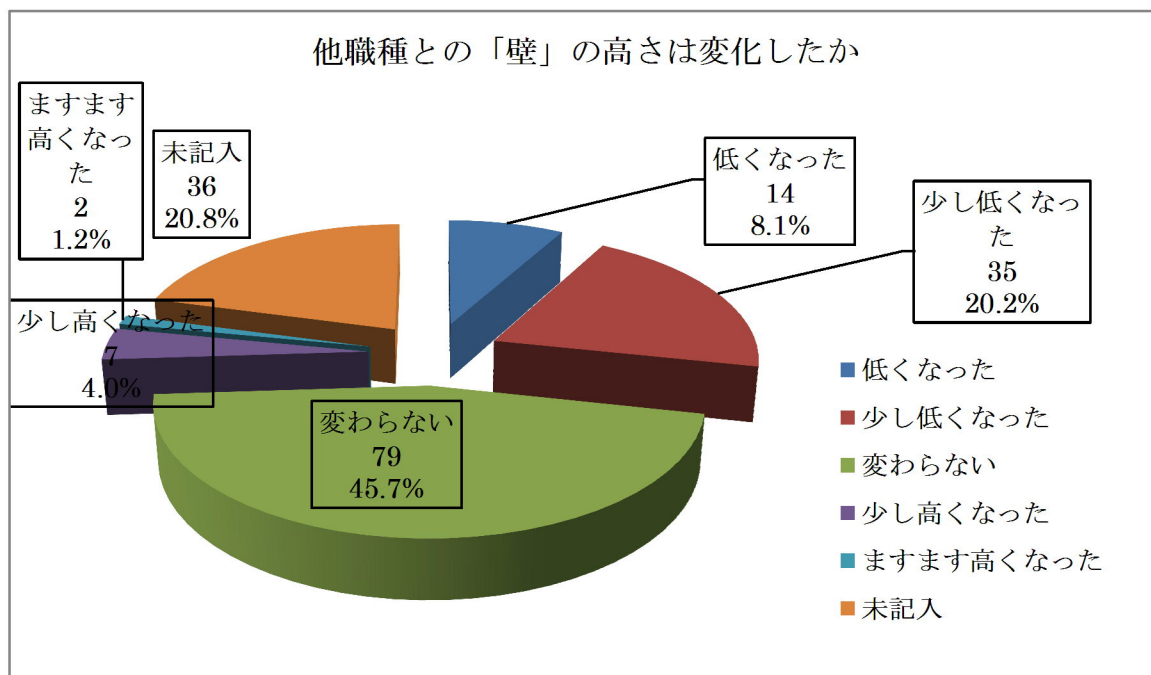
質問8 「よい連携」を作る上でこの研修会は良い機会になったか

なった	79人 (45.7%)	どちらかといえばなった	46人 (26.6%)
どちらでもない	24人 (13.9%)	どちらかといえばならない	4人 (2.3%)
ならない	5人 (2.9%)	未記入	15人 (8.7%)



質問9 他職種との「壁」の高さは変化したか

低くなった	14人 (8.1%)	少し低くなった	35人 (20.2%)
変わらない	79人 (45.7%)	少し高くなった	7人 (4.0%)
ますます高くなった	2人 (1.2%)	未記入	36人 (20.8%)



質問10 医療と介護の連携に必要なことは何だと思えますか？ご意見をお聞かせ下さい。

(看護師)

- ・学習会の回数を多くし、お互いの壁を取り外し共有して行くことが大切と思います。
- ・ケアマネの質のレベルアップ。
- ・医療者も介護者も介護する人に対して、同じ方向に向けて看護・介護ができるよう、コミュニケーションを取りながらやること。
- ・常に情報交換を行い、お互いの意見を聞いて方向性を同じ方へ向ける。
- ・積極的にこのような会に出席し他職種と知り合うことが必要であると感じました。

(準看護師)

- ・理解 (F a とHP側と介護施設側)

(歯科衛生士)

- ・システムを構築して情報を共有できれば。行政と病院間で独居老人の情報など。

(介護福祉士)

- ・役所がもう少し立ち寄りやすい場所となるよう希望します。
- ・情報の交換を密にする。
- ・情報交換。世代、職種を超えたコミュニケーション。
- ・家族介護は毎日が大変です。医療の方の助言や入院期間の延長を希望します。助言、情報交換が必要です。
- ・情報の共有。周辺症状に対する同じ対応。
- ・認知症を気づく事の情報交換についての連携。
- ・情報の提供。
- ・認知症について全職員が知識を深めること。

- ・この頃は医療の方も介護について知識がある方がいらっしやるので連携がスムーズになったと感じています。介護側も医療に関する知識を得て頂くことが必要だと思います。
- ・良好なコミュニケーション。
- ・早期発見で介護の必要のないようにする事。
- ・医療職と介護職の交流。
- ・定期的な話し合い。

(介護支援専門員)

- ・スキル。知識の向上。共有化。
- ・お互いの分野の理解を深めること。
- ・医療関係者も介護保険制度について理解を頂きたい。例えばデイケア利用時にお願いする診療情報提供書の依頼をした際、スムーズに書類を書いて頂けるのではないかと思います。
- ・認知症のため病院に入院できないと言われた。医療側の理解と体制を整えて頂きたい。
- ・顔の見える関係づくり。
- ・必要だと思います。
- ・お互いの「壁」をなくす。医師の福祉に対する理解。
- ・総合診療科を広め在宅には複数の通院が必要となるのが負担となっている。
- ・今回のように地域の方が参加できる講演があると良いと思います。
- ・少しずつ顔の見える連携を作って行きたいと努力している方に感謝しています。
- ・お互いを理解すること。

(介護員)

- ・家族の気づきが第一である。なかなか同じ家の人だと気づかない。地域・近所の方からの情報が必要である。それから医療のお世話になり、正しい対応が早期にできるのかなと思う。
- ・お互いに申し送りが大事だと思います。
- ・声をかけてあげ、相手の話に耳を傾け、共感することが大切なことと感じました。笑顔の日々でありたい。
- ・コミュニケーション的な繋がり。
- ・必要だと思います。今の会社でも連携が必要だと思います。
- ・思いやりの心だと思います。
- ・病院勤務で最近、認知症の患者様が増えてきているのが実感しています。病院から次というのが続かない現実です。その為に家族様も気軽に話せる連携。また、家族も認知症と認める（病院）
- ・進行が早くてついて行けなかった。
- ・地域包括支援センター
- ・情報交換とそのための良好なコミュニケーション。

(医療関係者)

- ・連携を「何故」必要なかの目的。

(福祉施設関係者)

- ・医師的な専門分野が多く、よく理解できなかつた。3ヶ月の経験しかないのもそう感じたものと思う。
- ・賃金の差

(行政関係者)

- ・情報交換。

(その他)

- ・お互い理解すること。言葉遣いに気をつけること。(民生委員)
- ・いろいろ相談にのってほしい。

- ・常に病院に行き先生といろいろなお話をしています。私は血圧でひがしやま病院に月1回は行っています。
- ・認知症を支える町づくり。
- ・医療従事者の壁を低くし、地域、介護従事者がマナーを守ること。相談員の方々の活用。地域資源を円滑に結びつける職員の方々の育成。
- ・医・介に限った話ではありませんが、顔のつながりが大事だと思います。
- ・信頼すること。
- ・まさに「ほうれんそう」かなと思いました。協力し合いご本人の事を最善に考えて対応していくことではないでしょうか。ドーナツ形の協力連携とても参考になりました。
- ・ぼけないように毎日3人以上の人と会話をする事。
- ・良い話でしたがスピーカーかマイクが悪いのか先生の話が聞き取れませんでした。
- ・たくさん介護サービス事業所の方がいらして、今までにないくらいの参加人数を見て、今後の連携に大変期待しています。
- ・今回のような地域住民も参加できる研修
- ・介護されないように常に気を付けて楽しく過ごす。

質問 11 一関市で取り組んでほしいことや、医療と介護の連携連絡会等で希望する研修内容やテーマをお聞かせ下さい。

(看護師)

- ・家庭で家族がどの様に介護していけば良いのか。独居の人に対しては近隣、地域の方々がどの様に接して行くべきか。
- ・脳卒中を予防するための生活について。食事や運動など。

(准看護師)

- ・看取りと在宅看取り
- ・お互いを理解すること。対象者を一番に考えること。

(歯科衛生士)

- ・精神病について

(社会福祉士)

- ・家族の抱える問題について（ケース等）
その問題解決のポイントをテーマにして欲しい。
- ・介護方法を医療の立場で教えて欲しいです。
- ・地域住民への認知症のことを伝える方法（実際に動画を見ることは分かりやすくて良かった。）
- ・やっと思っていると思います。

(介護福祉士)

- ・生活習慣病予防。
- ・褥瘡について

(介護支援専門員)

- ・介護職のサポート、勉強会、ディスカッションする場の提供。
- ・認定制のような積み重ねていく研修会の開催
- ・認知症ケア「ユマニチュードについて」の研修。
介護保険制度の中で医療サービスとして、通所リハビリや短期入居療養介護を利用するときに、医師の意見書を確認しなければならないが、短時間で利用者の負担、医師の負担なく確認できるツールや手段などについての研修。

- ・本日の研修で一関で脳梗塞発症ワースト1との事、脳梗塞を発症しないためにどうすれば良いかの研修が必要と思います。
- ・施設やグループホームの現状を医療関係者にも知って欲しい。(例、胃瘻造設で入所し易くなる訳ではない、認知症のショート利用も制限される等)
- ・訪問診療と総合診療の充実
- ・医療職と介護職の交流。
- ・看取りについての事例

(介護員)

- ・日常の実際の対応の仕方について重点をおいて頂きたい。
- ・もう少しゆっくり詳しく・・・
- ・認知症の内容をもっと詳しく。

(医療関係者)

- ・認知症について言えば関係者だけではなく、これから社会に出る中学生、高校生に対する教育が有効と考える(認知症にならない方法など)
- ・これからもお願いしたい。

(行政関係者)

- ・医療・介護の現場の職員がざくばらんに意見交換できるような機会がないと、顔のつながりはそう簡単にできないと思います。

(その他)

- ・地区にある公民館等を利用して、老人にできる体操等をしてほしい。
- ・地域住民との連携も大事だと思います。
- ・テーマに沿った内容で事例をもっと挙げて頂けると良かったです。実際、家族の問題として「認知症」はテーマとして良かったです。先生のお話、参考になりました。
- ・研修があれば、できる限り参加し地域内のことについても更に分かるようにし対処したい。本日はありがとうございました。
- ・年を取ってきて若い人たちがいないため、医療と介護の必要があつて欲しいです。お話を聞いて良かったです。家族で見守って行かなければいけないことである。
- ・介護する家族が休める体制と施設(認知症の方が入所する所)
- ・施設の充実・増設に
- ・情報共有が幅広くできること。
- ・大きい病院にかかりたくても、紹介状とかがないと診てもらえない。困っています、何とかならないでしょうか。
- ・自分も介護2級の資格を取らせてもらいましたが、今は病気にならないようにしています。
- ・身近なところの見守り、大切、近所、どの程度までの必要か。
- ・子育て世代ですので、子供の医療などの研修会。
- ・話し合いが大切。

自由記載欄

(准看護師)

- ・認知症で「加速度的増加は、特に低中所得国」とありますが、なぜですか？質問できませんでした。解釈として、低い栄養と、生活習慣病が関係するのですか？

(介護員)

- ・気仙沼から岩手に通っています。今の会社で一番若いと期待を持たれプレッシャーを感じています。(21歳)また、知識も少ないため、今回の認知症の話を聞けてとても良かったです。また参

加したいと思います。

(その他)

- 本日、自宅に介護保険料の金額記載された切符が送付になったが、自分もその年になったのかなと思った。
- しかし、なるべく自己完結で生きていきたい。
- 有意義な研修になりました。
- 今日はありがとうございました。いろいろ学び理解していくことが大事でしょうか？